

	大阪大学 人文科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	文学部（第1年次：165名） 外国語学部（第1年次：580名、第3年次：10名） 文学研究科（M：94名、D：41名） 言語文化研究科（M：67名、D：28名） 日本語日本文化教育センター
沿 革	<p>【大阪大学】 昭和6（1931）年 大阪帝国大学設置 昭和23（1948）年 法文学部設置 昭和24（1949）年 大阪大学設置、法文学部を改組し、文学部を設置 昭和28（1953）年 文学研究科設置 平成元（1989）年 言語文化研究科設置</p> <p>【大阪外国語大学】 大正10（1921）年 大阪外国語学校設置 昭和19（1944）年 大阪外事専門学校に改称 昭和24（1949）年 大阪外国語大学外国語学部設置 昭和29（1954）年 大阪外国語大学留学生別科設立 昭和44（1969）年 外国語学研究科設置 平成3（1991）年 留学生日本語教育センター設置 平成9（1997）年 外国語学研究科を廃止し、言語社会研究科を設置 平成17（2005）年 留学生日本語教育センターを日本語日本文化教育センターへ改称</p> <p>【大阪大学・大阪外国語大学統合以降】 平成19（2007）年 大阪大学・大阪外国語大学との統合に伴い言語文化研究科言語社会専攻設置</p>
設置目的等	<p>【大阪大学】 昭和23（1948）年に、法文学部が設置された。 昭和24（1949）年に、人文学の教育研究を通じて、高度の論理的思考力と豊かな感性によって人間社会の未来を切り拓く能力をもった人材を養成することを目的として、法文学部を改組し、文学部が設置された。 昭和28（1953）年に、人文学の教育研究を通じて、高度の研究能力を有し、社会において専門職業人として活躍しうる人材を養成することを目的として、文学研究科が設置された。</p>

平成元（1989）年に、人文科学・社会科学・自然科学の専門を基礎としながら、国際化・情報化の進展する現代社会の諸問題に即応しうる、学際的な教育研究の体系を築くことを目的として、言語文化研究科が設置された。

【大阪外国語大学】

大正 10（1921）年に、大阪外国語学校が設置された。

昭和 24（1949）年に、大阪外国語大学が設置された。また、同年に、外国の言語及びそれを基底とする文化一般について理論及び実際にわたって教授研究し、言語を通じて外国に関する深い理解を有する有為な人材を養成することを目的として、外国語学部が設置された。

昭和 29（1954）年に、国費外国人留学生に対する日本語・日本文化教育を目的として、大阪外国語大学に留学生別科が設立された。また、我が国の留学生受け入れ施策の一翼を担う拠点機関として、平成 3（1991）年に、留学生別科を母体として留学生日本語教育センターが設置され、平成 17（2005）年に、日本語日本文化教育センターに改称した。

平成 9（1997）年に、外国語学研究科が改組され、世界各地の様々な文化を「言語社会」の観点で捉え直し、広域的及び超域的もしくは国際的視座から総合的に研究するとともに、豊かな国際性を備えた有能な人材の育成を目的として、新たに言語社会研究科が設置された。

【大阪大学・大阪外国語大学統合以降】

平成 19（2007）年に、大阪大学と大阪外国語大学との再編・統合に伴い、言語文化研究科言語社会専攻を設置した。

強みや特色、
社会的な役割

【総論】

大阪大学における人文科学分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における人文科学分野の先導的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。

引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強みや特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

【教育】

(学部)

○ 人文学分野では、国内外の文化・社会を広い視点で理論的・歴史的・多面的に理解・分析する基礎的な能力に加え、自ら主体的に問題設定する能力を有し、国際的に通用する人材を育成する。

また、外国語学分野では、修得した言語能力を駆使して当該言語地域の言語や文化・社会に関する学習や研究の成果を積極的に発信できる能力を有し、広く社会で活躍できる人材を育成する。

○ このため、人文学分野では、学生の主体性や問題意識を育むため、演

習など少人数の双方向型授業を中心とし、哲学、史学、文学などの伝統的な学問分野のみならず日本学・芸術学・文化動態論等に亘る多彩な(人文学)教育を提供している。

外国語学分野では、学年毎に各専攻語教育に係る学習到達目標を定め、英語教育においては、第三者機関が実施する客観的な能力試験と連動した質保証を行っている。これらに加え、異なる言語を母語とする学生同士が学び合うタンデム学習や、交流協定等を介した海外留学、多くの留学生受入れ等を通じ国際的な教育環境の整備を進めている。

- 今後、学位プログラム全体を通じ卒業時に必要とされる資質や能力がどのようなものかを明示しつつ、最新の研究成果に基づくカリキュラムや国際化等に積極的に取り組み、体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等により、我が国の学士課程教育の質的転換を先導する。

(大学院)

- 人文学分野では、総合的な視点を持ち、新たな問題発見能力、各種事象や社会的行為などについて適切なデータを収集し、正確に分析する能力、実証的にかつ論理的に論証する能力を有し、国際的に通用する高度専門職業人・研究者を育成する。

また、言語文化分野では、現代社会の国際化・情報化に即応した高度な言語文化リテラシーを身につけ、その知見を世界に向けて発信し得る人材、国際舞台で活動するために必要な広い知識と高い教養、深い理解力を有する高度専門職業人・研究者を育成する。

- このため、人文学分野では少人数授業、学生の主体性や問題意識の醸成を重視する双方向型授業及び多様な「体験型授業」を展開し、エラスムス・ムンドゥス・マスタープログラムへの参加等を通じ、教育の国際標準性を高めている。
- 今後、社会人学生対象のチューター制度や長期履修制度の更なる活用、英語授業を担当できる外国人教員の採用及び EU (欧州連合) など海外の大学との連携等を進めつつ、多言語能力と他学部・他研究科の専門知識をバランスよく学んだマルチな能力を有する人材を育成するなど社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。また、人文学及び言語文化分野の教育の国際通用性を確保する。

【研究】

- 西欧からアジア、日本の古典的書物や文献、及び歴史的史資料の厳密な調査と実証に基づく基礎研究を推進し、また、それによる特に優れた研究実績をいかし、従来の人文学では取り扱わなかった現代的諸課題を解決するための横断的領域の研究等を推進している。

また、世界諸言語・諸地域に関する高い専門性や広い視野による特に優れた研究実績をいかし、世界 24 言語及びそれらの言語を基底とした文化や社会について、言語学、文学、歴史学、社会学等の様々な方法論による語圏研究を推進している。

- 今後も、国際的な研究・教育交流をさらに進めつつ、教員組織見直しによる研究組織の活性化、助教任期の多様化による研究展開力の向上に取り組み、組織的に総合的な研究を推進し、我が国の社会の課題解決・文化の発展を牽引する。また、我が国の社会・文化に関する研究成果を国際的に広く発信する。

【その他】

- 各種公開講座の実施や、日本文学、日本史学、考古学、人文地理学等に関連する資料等の保存・目録作成、デジタル画像データ化とその公開、高大連携等を通じた地域・社会貢献を行っている。
- 大阪外国語大学との統合後の効果・課題の検証を踏まえた全学的機能強化に向けた改革を引き続き検討し、社会状況やニーズを踏まえた取組とそのため組織体制の在り方を速やかに見直す。